

Toyota Municipal Museum of Art Press Release

豊田市美術館 プレスリリース

2021.2.17



Toyota
Municipal
Museum
of Art

豊田市美術館



BEUYS + PALERMO ボイス+パレルモ

2021年4月3日[土]—6月20日[日]

休館日： 月曜日 [5月3日は開館]

開館時間： 午前10:00-午後5:30 (入場は午後5:00まで)

主催： 豊田市美術館 共催：中日新聞社 後援：ゲーテ・インスティトゥート東京 協力：ルフトハンザ カーゴ AG

観覧料： 一般1,200円 [1,000円]、高校・大学生700円 [500円]、中学生以下無料

[]内は20名以上の団体料金。

障がい者手帳をお持ちの方 (介添者1名)、豊田市内在住又は在学の高校生及び豊田市内在住の75歳以上は無料 (要証明)。

*その他、観覧料の減免対象者及び割引等についてはホームページをご確認いただくか、豊田市美術館へお問い合わせください。

*感染症拡大防止のため会期、関連事業の内容、来館者の受入態勢等を変更する場合があります。当館ホームページから最新情報をご確認ください。

開催趣旨

展覧会「ボイス+パレルモ」を開催します。

ヨーゼフ・ボイス（1921-1986）、第二次世界大戦以降の最も重要な芸術家のひとり。彼は「ほんとうの資本とは人の持つ創造性である」と語り、ひろく社会を彫刻ととらえ社会全体の変革を企てました。本展では60年代の最重要作品である《ユーラシアの杖》をはじめ、脂肪やフェルトを用いた作品、「アクション」の映像やドローイングなど、彼の作品の造形的な力と芸術的实践にあらためて着目します。

ボイスは教育者として多くの芸術家を育成したことで知られています。ブリンキー・パレルモ（1943-1977）もその教え子のひとりです。この早世の画家が60年代半ばからの短い活動期間に残したささやかで抽象的な作品は、絵画の構成要素を再構築しながら、色彩やかたちの体験をとおして私たちの認識や社会的な制度に静かな揺らぎをもたらそうとするものでした。ボイスはのちにパレルモを自身にもっとも近い表現者だったと認めることになります。

一見対照的な二人のドイツ人作家の作品は、しかし、芸術を生の営みへと取り戻そうと試みた点で共通していました。両者の1960-70年代の作品を中心に構成される本展は、約10年ぶりとなる日本でのボイス展であり、公立美術館としては初めてのパレルモ展です。二人の作家それぞれの特徴をうかがいながら、両者の交わりや重なりによって彼らの実践の潜勢力を探る本展が、社会と芸術のかかわりについてあらためて問いかけ、芸術の営みとはなにかを見つめなおす機会となることを願います。



右：ヨーゼフ・ボイス《直接民主制の為のバラ》1973

左：ブリンキー・パレルモ《無題》1974

gigei10蔵

作家紹介

■ヨーゼフ・ボイス (Joseph Beuys, 1921-1986)

ドイツのクレーフルトに生まれ、オランダとの国境近くの町クレーヴェで青年期までを過ごす。第二次世界大戦に通信兵として従軍、ソ連国境付近を飛行中に追撃され瀕死の重傷を負うが、現地のタール人に脂肪を塗り込まれ、フェルトに包まれることで一命をとりとめる。この体験とそこで用いられた脂肪とフェルトがのちのボイスの制作における重要な「素材」となる。戦後は芸術家を志し、デュッセルドルフ芸術アカデミーに学ぶ。1961年に同校教授となり、パレルモをはじめ多くの芸術家を育成した。「拡張された芸術概念」及び「社会彫塑」を唱えるボイスは、こうした教育活動をはじめ、政治活動や環境問題までもを自らの問題として引き受け、「緑の党」の結党に関わるなど、広く公衆に語りかけ続けた。最晩年の1984年には日本に招かれ、展覧会のみならずアクションや学生との討論会を企て少なからぬ足跡を残した。1986年に歿。戦争の加害者でありかつ被害者でもある自身の体験に基づく作品制作と、芸術を社会のあらゆる領域へと拡張しようとした姿勢において、ボイスは今日においても最も影響力のある芸術家のひとりであることは間違いない。



■ブリンキー・パレルモ (Blinky Palermo, 1943-1977)

ドイツのライプツィヒに生まれる。本名はペーター・ハイスターカンブ。1964年にデュッセルドルフ芸術アカデミーでボイス・クラスに入って早々、マフィアでボクシングのプロモーターのブリンキー・パレルモに由来するあだ名をつけられると、それをそのまま作家名にしてしまった。学友にはゲルハルト・リヒターやイミ・クネーベルといった現代ドイツを代表する作家たちがいた。アカデミー在籍時より20世紀初頭のカジミール・マレーヴィチやピート・モンドリアンらの抽象絵画や、同時代のミニマルズムの動向に影響を受けながら、カンヴァスや木枠といった絵画の構成要素自体を問い直す作品を手掛けるようになる。1977年にモルジブで客死するまで、既製品の布を縫い合わせた〈布絵画〉、建築空間にささやかに介入する壁画、小さなパネルを組み合わせた〈金属絵画〉など独自の制作を展開した。絵画制作をとおして、色やかたち、空間などを知覚するその認識そのものを問う繊細な作品は近年評価が高まっている。



展示予定作品

約130点 (ボイス約80点、パレルモ約50点)

*会期中で展示替えを予定しています。

展覧会のみどころ

■ボイスとパレルモ、対照的な作家の組み合わせによる二人展です。

かたや雄弁で政治活動も盛んな彫刻家。かたや寡黙に絵画の可能性を探究した画家。対照的な二人ですが、作品を並べてみれば造形的な特徴においてや、制作に当たっての姿勢において、共通するものを探ることも可能です。本展ではボイスとパレルモのそれぞれの作家の作品を概観しながら、「フェルトと布」「循環と再生」といったキーワードで両者を併置することで、よく知られた作家であるボイスについては新しい視点を、日本ではなじみのないパレルモについては作品により近づきやすい視点の提示を試みる、日本の美術館による独自企画です。

■ボイスの「作品」に着目します。

ヨーゼフ・ボイスは20世紀を代表する芸術家のひとりであり、「社会彫塑」を訴える彼の思想はとりわけ影響力の強いものでした。しかし本展ではあらためて彼の「作品」や造形行為に着目します。2021年はボイス生誕100周年ということもあり、ドイツをはじめ各地でボイス展が開催されます。それはまた、ボイス作品を確保することが難しいということも意味します。本展ではドイツと日本の複数の美術館の協力のもと、日本でこれまで十分に紹介されてこなかった50-60年代の初期のドローイングや大型作品《ユーラシアの杖》、国立国際美術館が新収蔵することになった《小さな発電所》(1984年)など代表作を含めた約80点でボイス作品の本質に迫ります。1984年の作家来日以来の大型作品を含めたボイス展です。

■ヨーゼフ・ボイスの代表作《ユーラシアの杖》を日本で初めて公開します。

ボイスの1968-69年のアクション「ユーラシアの杖」(ヘンニク・クリスティアンゼンとの共演)は、東西の冷戦下のヨーロッパにあつて、ユーラシア大陸を再接続しようと試みるボイスの終生にわたるユーラシア概念を示す代表的なパフォーマンスでした。そこで用いられた作品《ユーラシアの杖》は4mを超える4本の柱と金属の長い杖で構成されたスケール感のある大作で、60年代のボイスの最重要作品のひとつです。ユーラシア大陸の東端で開催される本展では欧米以外では初めてこの作品を展示します。



ヨーゼフ・ボイス《ユーラシアの杖》1968/69
木、フェルト、銅 ca. 410 x 180 x 180 cm
クンストパラスト美術館、デュッセルドルフ
© Kunstpalast - Manos Meisen - ARTOTHEK

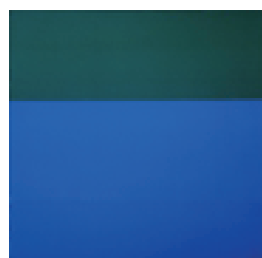
展覧会のみどころ

■ボイスのパフォーマンス「アクション」の映像を計7本上映します

「ユーラシアの杖」をはじめ、ボイスの芸術実践においてアクションと呼ばれるパフォーマンスは核となるものでした。実のところ多くのボイス作品がこのアクションにて用いられた素材や道具に由来します。しかしこれまでボイスのアクションの映像をまとめて見られるのは、とりわけ日本においてはごく限られた機会しかありませんでした。本展では1984年の来日時のナム・ジュン・パイクとの共演「コヨーテIII」を含めた7本のアクションの映像をボイス作品とともにご覧いただきます。

■ブリンキー・パレルモを日本の美術館ではじめてまとまって紹介する機会です。

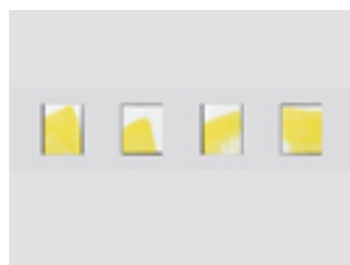
ブリンキー・パレルモは日本ではほとんど知られていないと言っても差し支えないでしょう。しかし、とりわけ2000年以降、彼の作品を振り返る大規模な展覧会がドイツ国内のみならず欧州各地で、そしてアメリカでも開催されてきました。それは絵画の在り方そのものをキャンバスや木枠といった構成要素から再構築しながら、美術作品と身近な日常とをささやかに接続するようなパレルモの実践が見直されてきたからにほかなりません。本展では15年に満たない短い活動期間に手掛けられた貴重な作品を1960年代半ばの初期作品から、70年代の彼の代表作である金属絵画まで約50点(↓のドキュメンテーションを含む)で振り返ります。



<布絵画>シリーズ

既製品の布を組み合わせて抽象絵画のように見立てたパレルモを代表するシリーズ

ブリンキー・パレルモ《無題》1969 綿布、モスリン、ストレッチャー 200 x 200 cm
クンストパラスト美術館 © Kunstpalast ARTOTHEK



<金属絵画>シリーズ

4枚の金属のパネルに色彩を配するパレルモ晩年の作品。このタイプのパレルモ作品は日本初公開。

ブリンキー・パレルモ《無題》1977 アクリル、アルミニウム
各26.7 x 21 x 0.2 cm 個人蔵

■パレルモの壁画のためのドキュメンテーションを全点展示します。

ボイスがアクションで観衆を挑発したとしたら、パレルモは画廊や美術館などに壁画を施し、静かに見る者の意識に訴えかけました。5年ほどのあいだに約30点が手掛けられた壁画は、ひとつも現存していませんが、パレルモの作品群にあってもっとも重要な活動と目されていました。本展ではこの壁画の記録としてパレルモが残していた、構想スケッチと記録写真からなるドキュメンテーションをボン市立美術館の協力のもと全点展示します。

関連事業

会期中ギャラリートーク等の開催を予定しています。
予定、日程等の詳細はホームページにてお知らせします。

カタログ

展覧会にあわせて刊行されるカタログ『ボイス+パレルモ』は、展覧会企画者による複数のエッセイ、気鋭のボイス研究者であるスヴェン・リントホルム (Sven Lindholm) 氏、パレルモ研究の第一人者のひとりクリストフ・シュライアー (Christoph Schreier) 氏による各論、出品作品のカラー図版に加え、ボイスとパレルモのさまざまなドキュメント写真などを収めた充実の内容の約320頁を予定。

デザイン：刈谷悠三+角田奈央／neucitora

出版：株式会社マイブックサービス

刊行予定日：2021年3月

価格：3,600円+税

A4, 320ページ程度を予定

巡回情報

埼玉県立近代美術館：2021年7月10日[土]ー9月5日[日](予定)

国立国際美術館：2021年10月12日[火]ー2022年1月16日[日](予定)

*巡回会場についてのお問い合わせは、各館に直接お願いいたします。

*展覧会構成、出品作品は異なります。

お問合せ

豊田市美術館 〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町8丁目5番地1

HP: <https://www.museum.toyota.aichi.jp> e-mail: bijutsukan@city.toyota.aichi.jp

- 展覧会に関すること 学芸担当：鈴木、千葉 Tel 0565-34-3131
- 掲載依頼・取材等に関すること 庶務担当：吉兼(よしかね)、小川 Tel 0565-34-6748

ボイス+パレルモ
広報用画像について

紙媒体用



Toyota
Municipal
Museum
of Art
豊田市美術館

画像等の資料をご希望の方は以下を記入のうえ、Faxかe-mailでお送りください。

送り先：豊田市美術館 庶務担当 吉兼（よしかね）、小川

Tel 0565-34-6748 Fax 0565-36-5103

e-mail: bijutsukan1@city.toyota.aichi.jp

お名前	様	ご所属
Tel	Fax	
e-mail	必要な画像等の番号	
掲載紙／メディア名	発売日（～号／～月～日）	
必要な鑑賞券枚数（最大5組10名分）	枚	鑑賞券の送付先

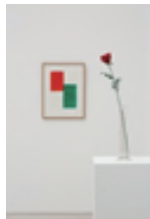
*読者プレゼントのため等、希望する場合のみご記入ください



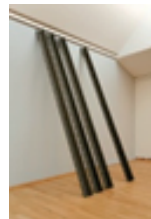
1



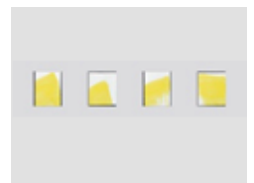
2



3



4



5

- ヨーゼフ・ボイス《そして我々の中で…我々の下で…大地は下に》1965年のアクション
bpk | Sprengel Museum Hannover, Archiv Heinrich Riebesehl, Leihgabe Land Niedersachsen / Heinrich Riebesehl / distributed by AMF
- プリンキー・パレルモ、1973年ハンプルクにて bpk | Angelika Platen / distributed by AMF
- 右：ヨーゼフ・ボイス《直接民主制の為のバラ》1973年 左：プリンキー・パレルモ《無題》1974年 gigei10蔵
- ヨーゼフ・ボイス《ユーラシアの杖》1968/69年 クンストパラスト美術館、デュッセルドルフ © Kunstpalast - Manos Meisen – ARTOTHEK
- プリンキー・パレルモ《無題》1977年 個人蔵

資料の使用には以下の点にご注意ください。

- ・作品写真のトリミング、文字のせはご遠慮ください。
- ・作品画像1点当たり掲載サイズが50平方cmを超える場合、また付随する文章が400文字を超える場合は事前にお知らせください。
- ・クレジットとともに以下の著作権情報を必ず表記してください。
VG Bild-Kunst, Bonn & JASPAR, Tokyo, 2021 E4044
- ・情報確認のためお手数ですがゲラ刷り等をお送りください。
- ・掲載（放映）終了後に、掲載出版物または録画メディアを広報担当宛てにお送りください。
- ・画像の二次使用や転載はお断りします。提供するデータは使用後必ず破棄してください。

画像等の資料をご希望の方は以下を記入のうえ、Faxかe-mailでお送りください。

送り先：豊田市美術館 庶務担当 吉兼（よしかね）、小川

Tel 0565-34-6748 Fax 0565-36-5103

e-mail: bijutsukan1@city.toyota.aichi.jp

お名前	様	ご所属
Tel	Fax	
e-mail	必要な画像等の番号	
掲載紙／メディア名	掲載予定日（～月～日）	
必要な鑑賞券枚数（最大5組10名分）	枚	鑑賞券の送付先

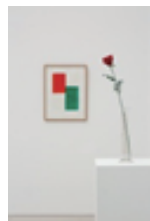
*読者プレゼントのため等、希望する場合のみご記入ください



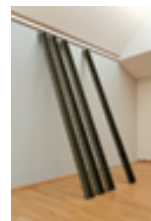
1



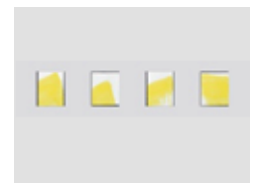
2



3



4



5

1. ヨーゼフ・ボイス《そして我々の中で…我々の下で…大地は下に》1965年のアクション
bpk | Sprengel Museum Hannover, Archiv Heinrich Riebesehl, Leihgabe Land Niedersachsen / Heinrich Riebesehl / distributed by AMF
2. ブリンキー・パレルモ、1973年ハンプルクにて bpk | Angelika Platen / distributed by AMF
3. 右：ヨーゼフ・ボイス《直接民主制の為のバラ》1973年 左：ブリンキー・パレルモ《無題》1974年 gigei10蔵
4. ヨーゼフ・ボイス《ユーラシアの杖》1968/69年 クンストパラスト美術館、デュッセルドルフ © Kunstpalast - Manos Meisen - ARTOTHEK
5. ブリンキー・パレルモ《無題》1977年 個人蔵

資料の使用には以下の点にご注意ください。

・三館での巡回企画としてご紹介ください。画像の掲載は展覧会会期末（2022年1月16日[日]）までとさせていただきます。

・作品写真のトリミング、文字のせはご遠慮ください。

・クレジットとともに以下の著作権情報を必ず表記してください。

VG Bild-Kunst, Bonn & JASPAR, Tokyo, 2021 E4044

・情報確認のためお手数ですがゲラ刷り等をお送りください。

・掲載時に、URLをお知らせください。

・画像の二次使用や転載はお断りします。提供するデータは使用後必ず破棄してください。